



ご存知でしたか

乳がんと診断された女性の10人のうち9人は親族に乳がんだった人がいません。

マンモグラム(乳房専用レントゲン)は、自分や医師による観察や触診で異常がわかるようになるずっと前に乳がんを発見できます。早期に発見された乳がんはほとんどが成功裏に治療できます。

プレストスクリーンNSWのマンモグラムは無料で、女性の放射線技師が行います。

乳がん検診の予約をするために無料の通訳をご利用いただけます。

集団検診の手配もでき、集団検診用に無料の通訳を手配することもできます。

かかりつけの医師からの紹介状は不要ですが、検診には医師の詳細をもってお越しください。

お電話で検診の予約を



13 20 50

プレストスクリーンNSW

プレストスクリーンNSWは無料の乳がん検診プログラムで、NSW州内150か所以上の検診所で乳がん検診を実施しています。このプログラムは1991年からオーストラリア政府の予算で実施されており、早期発見によって乳がんの死亡率を下げることを目的としています。

このプログラムは特に50歳から74歳の女性に推奨されていますが、40歳以上の女性ならどなたでもご利用いただけます。

お問い合わせは

最寄りの検診所に予約を入れるには：
13 20 50

より詳しい情報を調べるには

breastscreen.nsw.gov.au

通訳のご予約は

13 14 50



facebook.com/BreastScreenNSW

乳がんは
早期発見が
カギ

50歳から74歳までの女性の方へ

マンモグラムとはなんですか

マンモグラムとは女性の乳房のレントゲンです。プレストスクリーン (BreastScreen) NSWのマンモグラムは乳房になんの症状も変化もない女性を対象とした乳がん検診です。

マンモグラムを受けるべきでしょうか

はい。50歳から74歳の方の場合、2年ごとに乳房のレントゲンをとることが乳がん早期発見の最良の方法です。乳がんは早期に発見されれば、治療の成功率がもっとも高くなります。

乳がんは女性の出身国や話す言葉には関係なく、どんな女性にも発生しえます。NSW州では一生のうちに乳がんを診断される女性の割合は8人中1人にのぼり、その大半は50歳以上です。

マンモグラムではどんなことをしますか

検診には約**20分**ほどかかります。検診所にはお友だちやご家族の方に同伴していただいても構いません。事前にフォームをお送りしますので、ご記入の上これをご持参ください。ご記入が困難な場合には当方スタッフがお手伝いいたします。

女性の放射線技師が個室のレントゲン室にお連れしますので、そこで上の衣類とブラジャーを脱いでいただけます。マンモグラムでは担当技師は乳房のX線撮影を左右それぞれ最低2回は行います。撮影中は乳房が押さえつけられるため、この圧迫で少し痛みを感じるかもしれませんが、これは**非常に短い時間(約10秒)です**みます。レントゲンは乳房の大きさに関わらずとることができます。

痛い場合には担当の技師に知らせてください。マンモグラムはいつでも中断することができます。



50歳未満、74歳以上でもマンモグラムを受けられますか

40歳以上の女性なら誰でも、プレストスクリーンNSWに連絡すれば無料のマンモグラムが受けられます。

プレストスクリーンNSWによるマンモグラムは40歳未満の女性にはご利用いただけません。若い女性の場合には乳房の乳腺濃度が高く、マンモグラムで小さながんを見つけることが難しいため、この乳がん検診は効果的ではありません。

マンモグラムの安全性は?

レントゲンですので、マンモグラムの撮影には非常に少量の放射線が必要です。**乳がん早期発見の利点は放射線によって生じる可能性のあるリスクを大きく上回ることが研究調査でわかっています。**

マンモグラムの限界は?

乳がんの早期発見にはマンモグラムが最適です。**乳がんは発見が早いほど治療の成功率と回復率が高くなります。**ただし、他の検診と同じように、マンモグラムは100%正確とは言えません。

- マンモグラムを受けた女性のなかには、最終結果を得る前にもっと検査を受ける必要のある方が少数おられます。**さらに検査を受けたこれらの女性のうち、10人中9人は乳がんではないということがわかります。**
- 非常に低い確率で、乳がんがあるにもかかわらずマンモグラム検診が正常に見える場合があります。ただし、これは非常にまれです。**マンモグラム検診を受けてから1年以内に乳がんだと診断される確率は女性1000人に1人未満です。**
- プレストスクリーンNSWを通じて発見された乳がんのほとんどすべては、**治療を受けなければ悪化して命にかかわる病気になります。**ただし、発見されて治療を受けた乳がんのなかには、件数は非常に少ないながら命にかかわる状態にはならなかった可能性のあるものがあります。今の時点では、命にかかわる状態になる乳がん、そうならない乳がんを正確に識別することは不可能です。

検診と検診の間に自分の乳房を知っておきましょう

- 自分の乳房について知り、自分にとって正常な状態を把握しておきましょう。鏡の前で乳房を観察し、定期的に乳房の自己触診をしましょう。
- 乳房にしこりがあったり、乳首から分泌液が出ていたり、継続して新しい痛みがあるなど、いつもと違う**変化に気づいた場合には、すぐに医者に行きましょう。**